愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【オン】子どもの保健		
担当者(Instructors)	安本 卓也	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

現代の子どもの健康問題について、子どもの心身の特徴や各期の発達を理解し、効果的な心身の健康増進に係る保健活動について学ぶ。また、事故防止と安全対策に係るテーマから、地域や家庭との連携のあり方について考える。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式で授業を行う。授業の前半で子どもの身体の特徴を理解し、後半で関連した疾患について学ぶ。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	子どもの健康と保健の意義	本授業の内容の概略、到達目標、事前・事後学習、成績評価等について、オリエンテーションを行う。子どもおよび健康の定義を理解し、子どもの健康とは何か、保健の意義とは何かを考える。	□
第2回	子どもの発育・発達	ヒトの発育の原則について学習する。乳児期・幼児期・学童期・思春期における身体発育（体重、身長、頭囲等の発育）を理解する。	□
第3回	子どもの情緒・社会性の発達	知的機能、言語機能、情緒・社会性の発達を理解し、精神機能の評価法について学ぶ。	□
第4回	呼吸機能と関連する疾患	生命を維持する呼吸を構成する組織・器官とその発育を理解し、関連した疾患を学ぶ。	□
第5回	循環機能と関連する疾患	生命を維持する循環を構成する組織・器官とその発育を理解し、胎児循環、出生後の循環変化の発達からそれに関連した先天性心疾患について学ぶ。	□
第6回	消化機能と関連する疾患	摂食機能および消化機能の発達について理解する。日本人の食事摂取基準と食事バランスガイドについて学習し活用する。	□
第7回	排泄機能・水分代謝と関連する疾患	体内に侵入する異物より生体を守るしくみ（免疫）を理解し、子どもにみられる感染症について学ぶ。	□
第8回	免疫機能と感染症	子どもの体温調節機能の発達を理解し、発熱時の対応について学ぶ。	□
第9回	体温調節機能と関連する疾患	子どもの水分代謝の特徴・排尿・排便機能の発達について理解し、関連した疾患について学ぶ。	□
第10回	アレルギー反応と関連する疾患	アレルギー反応について理解し、アナフィラキシーを起こした時の対応について学ぶ。	□
第11回	内分泌機能と関連する疾患	内分泌機能の発達について、それぞれのホルモンの働きを理解し、関連する疾患について学ぶ。	□
第12回	感覚機能・神経機能と関連する疾患	感覚機能（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、皮膚覚）の発達と、原始反射の発達を理解し、関連した疾患んについて学ぶ。	□
第13回	運動機能と子どもに起きやすい事故	子どもの運動機能の発達を理解し、起こりやすい事故について学ぶ。	□
第14回	まとめ１（小テスト・解説）	テストを実施し、解説を行う。	□
第15回	まとめ２（全体のふりかえりと課題の確認）	子どもの保健の総まとめを行い、今後の課題について確認する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

健康に関する出来事に注目すること、自分自身の生活習慣を振り返ること、子どもと接する機会をもつことにより、日ごろから子どもの保健に関心を寄せる。 毎授業前までに、授業で扱う内容のテキストの部分を60分程度読んでくること。 授業後はテキストや配布資料を用いて授業内容について調べて、次の授業の最初に実施する小テストの対策を120分程度すること。 事前・事後に学習した内容について適宜課題レポー

トを課すため、60分程度かけて提出期限内に内容をまとめて提出すること。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

講義ごとにリフレクションペーパーや小テストを課し、次の講義で回答に対する評価を伝える。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019子ども発達DP1	子どもの成長発達の特徴を理解し、起こり得る健康障害や事故について説明ができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	子どもの成長発達に関する評価尺度を用いて、起こり得る健康障害の療養生活や事故予防について考えることができる。
主体性	◆ 2019子ども発達DP3	現代社会における子どもの健康問題について、積極的に興味関心を持ち、主体的に学ぶことができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
		20%	20%	60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

講義内で、子どもの健康に関するレポートを課します。また、毎講義の始めに前回までの内容の小テストを課しますし、14回、15回の講義時間内に全ての講義内容についての筆記試験を実施致します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	小林美由紀編著、子どもの保健テキスト、診断と治療社	978-4-7878-2330-4
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	中根敦子/佐藤直子編著、子どもの健康と安全、ななみ書房	978-4-903355-81-8
2	小林美由紀編著、子どもの健康と安全演習ノート、診断と治療社	978-4-7878-2406-6
3		
4		
5		